

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	グローバル・プラス			
○保護者評価実施期間	R8年1月6日		～	R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○従業者評価実施期間	R8年1月6日		～	R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの特性やニーズを精査し、それに基づいた個別支援計画を柔軟に策定・運用することで、学習面および生活面における能力伸長を確実に支えている点が当事業所の強みである。	計画の実効性と質を維持するため、定期的なモニタリングやケース会議を徹底し、多角的な視点から支援内容を不断に見直すことで、常に最適なアプローチへと改善を図っている。	支援記録にICTツールを積極的に導入することで情報の蓄積と共有を効率化しており、今後は蓄積されたデータ分析を通じて、より客観的な根拠に基づいた高度な支援体制を一層充実させていく。
2	家庭と事業所が共通の課題認識を持ち、一貫性のある支援を実践するための強固な協働体制を築いており、保護者が高い安心感を持って預けられる関係性を構築している点が強みである。	日々の連絡帳による細やかな情報共有に加え、定期的な面談を通じて相談しやすい心理的安全性を確保し、保護者の意向を汲み取りながら柔軟に対応できる環境づくりを意識的に実践している。	今後は専門的な情報提供会や保護者向け勉強会の開催を定期化し、療育への理解を共に深める機会を創出することで、家庭とのパートナーシップをより強固なものへと発展させていく。
3	感覚過敏や情緒不安定さを抱える児童に対しても、個々の特性を深く考慮した環境調整を徹底しており、心身ともにリラックスして活動に集中できる安心・安全な居場所を提供している点が強みである。	静養のためのクールダウンスペースの設置や、視覚的構造化を図る支援ツールの活用を日常化し、児童が過度な刺激を避け、自分らしく落ち着いて過ごせるための具体的な工夫を継続的に実施している。	今後は地域資源や専門機関とのネットワークをさらに強固にし、環境面での配慮に留まらず、心理学的アプローチや多職種連携による多角的なサポート体制を構築することで、支援の専門性を一層高めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在は事業所内での活動が中心となっており、学校や地域資源との有機的な結びつきが十分とは言えず、児童の社会参加や体験の機会を広げきれない点が課題である。	日々の支援業務の安定的な遂行に注力するあまり、外部機関との接点を持つための時間確保が不十分であり、組織的な地域連携に向けた具体的なアクションが後手に回っていることが主な要因である。	今後は学校や地域団体との合同プログラムを計画的に取り入れ、児童が多様な社会環境に触れる機会を創出するとともに、外部とのネットワークを再構築して地域全体で児童を支える体制を目指す。
2	職員間での支援技術や専門知識に一部差が生じており、事業所全体として一貫した質の高い療育を提供するためのスキルアップ機会が十分に確保できていない点が課題である	日々の安定的な運営と直接支援を優先せざるを得ず、外部研修への参加や内部での勉強会に充てる時間の捻出が困難となっており、知見を共有・継承する機会が不足していることが要因である。	今後は年間研修計画を策定して事例検討会を定期開催するとともに、外部講師の招聘やオンライン研修を積極的に活用し、スタッフ全体の専門性向上と支援の標準化を強力に推進していく。
3	支援内容の記録業務に多大な時間を要しており、職員が本来最も注力すべき児童支援に充てるべき時間が圧迫されている点が組織的な課題となっている。	現在もアナログな記録媒体や手書きによる運用が残っており、情報の重複入力や転記作業が発生するなど、業務フローの合理化・効率化が十分に進んでいないことが主な要因である。	今後はICTツールを全面的に導入して記録の標準化と入力プロセスの簡素化を断行し、業務負担を大幅に軽減するとともに、捻出された時間を直接支援や教材研究に充てることで、支援の質を向上させる体制を整えていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	グローバル・プラス
------	-----------

公表日 R8年 3月 31日

利用児童数

10

回収数

10

	チェック項目	はい	どちらとも いえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10				学習室や活動目的ごとに部屋があってわかりやすい	集中できる学習環境と活動スペースの分離を高く評価いただき感謝します。今後も目的別の環境構成をさらに工夫し、過ごしやすい空間を維持します。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	10					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	5				5	公園などで地域の子たちと遊んだなどの話は聞いている
保護者 への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	1				
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	10					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	5				兄弟支援はしていただいている
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10				電話相談後すぐに家に来てもらえたり、後日フォローもしてもらって助かっている	迅速な対応を評価いただき感謝します。今後も困りごとに対し、即座に寄り添いフォローできる体制とネットワークを維持してまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10				毎月プリントを持って帰ってくる。内容も様々です	お便り等での情報共有を評価いただきありがとうございます。今後も支援内容を可視化し、多角的な活動内容を定期的にお伝えし、共通理解を深めます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10				小さな怪我でもすぐに連絡してくれるし、後日に様子も聞いてくれる	安全管理と迅速な報告を徹底し、ご家庭との信頼関係を大切にします。今後も丁寧な連絡と、その後のきめ細かな状況確認を継続してまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10					
	29	事業所の支援に満足していますか。	10					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	グローバル・プラス		公表日		R8年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		とても広々している	広い空間を活かし、パーティション等で視覚的な刺激を調整し、集中しやすい環境を整える。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	車いす対応者なし	車いす利用の要望に即応できるよう、簡易スロープの常備や入り口の段差解消を計画する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		部屋ごとに雰囲気違ってすぐ心地よいです	部屋ごとの異なる雰囲気をより明確にし、児童が自律的に活動を切り替えられるよう配慮する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	5		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	5		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	6		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	4		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	4	LINEを使って保護者の方に連絡	LINEでの迅速な共有を継続しつつ、文字情報だけでは伝わりにくい成長の姿を動画等で補完する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	地域の方たちを招待できるようなイベントも考えたい	地域に開かれた事業所を目指し、自治会の会合への参加や事業所開放イベントの実施を検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	1		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	4	現在、アレルギー対応者はいない	食物アレルギーに関する最新の知識を職員間で共有し、万が一の誤食防止に向けた点検を徹底する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8				